



# 同窓会だより

## 新潟大学全学同窓会の誕生に関連して

新潟大学歯学部同窓会 会長 多和田 孝 雄



本年4月より会長に就任して2期目の執行部がスタートしました。1期目では就任した年に発生した水害や中越地震の対応に追われました。同時に手を付けた同窓会の会則を始めとした

諸規則の改定、会計業務の外部委託、さらに事務職員の追加採用等が、今年度に入り一段落しました。私の基本方針は1期目同様「会員一人ひとりを大事にすることにより、会員からも大切にされる同窓会づくり」、「会員にメリットのある同窓会づくり」、「強い同窓会づくり」の3点であります。

最近では歯学部同窓会よりも全学同窓会の動きの方が急でありますので、全学同窓会に関連した報告をさせていただきます。新潟大学が法人化した平成16年4月に全学同窓会の準備組織である全学同窓会連絡協議会が結成されました。その後2年の準備期間を経て本年4月1日に新潟大学全学同窓会が誕生しました。これは新潟大学9学部同窓会（人文・法・経済学部同窓会、医学部学生会、歯学部同窓会、教育人間科学部同窓会、理学部同

窓会、医学部保健学科同窓会、工学部同窓会、農学部同窓会、商業短期大学部同窓会）と新潟大学を基盤とした校友会で組織されております。それぞれの組織の代表者が理事となり、校友会代表の理事には学長が就任しております。理事会は全学同窓会の最高意思決定機関でありますが、その下に実務を担当する運営委員会があります。会長には人文・法・経済学部同窓会の柳本会長、副会長には私と医学部学生会の追手会長が就任しております。歯学部同窓会からの運営委員には佐藤副会長、鈴木副会長、福島学術理事が就いております。

本年5月27日(土)、ホテルイタリア軒において全学同窓会の設立式典及び祝賀会が同窓会関係者は素より大学、行政、政財界から大勢の方々に出席していただき盛大に開催されました。式典においては、新潟大学弦楽研究室四重奏団による祝賀演奏及び新潟大学合唱団50名による大合唱が花を添えてくれました。また、全学同窓会本部と同日に誕生した沖縄県支部の設立総会・祝賀会は本部より一足早く4月15日(土)に那覇市内のホテルにおいて開催されました。同支部は歯学部同窓会沖縄県支部の新里叡先生(7期生)を中心に準備が進められ、約100名の会員が確認されております。祝賀会には私と長谷川学長の2名が出席しましたが、地元の参加者も数十名を数え、沖縄恒例の祝宴の座開き琉舞「かぎやで風」でスタートし、2次会も含めて深夜まで宴席は続きました。



## 平成18年度同窓会総会を終えて

副会長 宮野正美

日時：平成18年4月22日(土) 午後4時30分から  
場所：歯学部2F大会議室

連日のように「記録的な……」、「観測史上……」という報道がなされた新潟の長かった冬も終り、移植された「歯学部の桜」が今年も満開の姿を見せてくれた4月第4週の土曜日、平成18年度歯学部同窓会総会が開催されました。今年も総会学術講演会（講師：齋藤 功教授）のあと、午後4時30分からの開催となりました。

開会に先立ち、この一年間で亡くなられた阪田雅浩先生（21期・平成17年7月25日逝去）、高野文夫先生（4期・平成17年12月4日逝去）、野原廣美名誉教授（平成18年4月20日逝去）のご冥福を祈り全員で謹んで黙禱を捧げました。

### 会長挨拶

冒頭、多和田孝雄会長は会長選挙の結果、ご自身2期目の会長の任にあたる事、監事には神保陸郎先生（3期生）、高木律男先生（10期生）が再選されたことをご報告されました。1期2年間の振り返り、就任当初掲げた3大方針「会員一人ひとりを大事にする事により、会員からも大切にされる同窓会作り」、「会員にメリットのある同窓会作り」、「強い同窓会作り」に沿っての会務執行を行ってきた。具体的には、長期会費未納会員へ同窓会誌を送付し、同窓会の現状を知っていただき再び会を支援していただきたい、過去に大学等勤務経験がある会員の公的年金請求方法のご案内、都府県代表幹事の設置、代議員モニター制の導入等による会員相互あるいは本部、支部・各都府県との連携強化と組織整備、対学部・対大学支援を念頭においた全学同窓会での活動、また今後は口腔生命福祉学科卒業生の受け入れに向けた準備や長年の課題である同窓会館（室）問題にも取り組む覚悟である。

つづいて、上路総務理事の議長の下、議事が粛々と進行了。慎重審議の結果、17年度事業、一般会計決算および特別会計決算ならびに18年度事業計画、18年度予算案は満場一致で承認されました。

特筆すべきことがいくつかあります。第一に、同窓会会則が改正されました。本会の目的が「本会は会員相互の連携と親睦および会員の資質向上を図り、併せて母校の発展と社会の貢献に寄与することを目的とする。」となり、新潟大学の支援と社会貢献としての責務を明確に打ち出しました。また会員構成区分の変更により、浅岡久俊元新潟大学教授が名誉会員として推薦、承認されました。第二に、慶弔規約、天災等被災に関する見舞規約が成立しました。各支部、クラス代議員、都府県代表幹事各位のご協力をいただき、情報収集に努めますのでよろしくお願い致します。しかしながら、見舞規約が頻繁に活躍しないことを節に望む次第です。第三に、同窓会館（室）設立に向けて、「同窓会館（室）設立検討委員会」を設け今後検討が開始されることが承認されました。大学の独法化や旭町地区再開発など不確定要素が多い中、将来も安定した同窓会活動の拠点となるべき同窓会館（室）とはどのような形がよいのか、会員皆様の貴重な財産の有効活用を第一に念頭に置き、今後同委員会を中心に検討がなされることとなります。

「歯学部の桜」が移植されたことはいろいろなところでお知らせしたとおりですが、国道116号線拡張整備事業で歯学部周辺の景観は様変わりをしました。遠方の皆様、是非一度なつかしい新潟にお出で下さい。また、支部の講演会など、同窓の先生を講師に依頼されて、母校の近況などをお聞きしてみたいかがでしょうか。

歯学部、大学本部、全学同窓会との連携を図りながら、歯学部同窓会のさらなる発展を目指してまいりたいと思います。会員皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

平成18年度歯学部同窓会総会学術講演  
【新潟大学医歯学総合病院矯正歯科診療室にお  
ける矯正治療の現況】

一齋藤功教授の学術講演を聴いて一

35期 三 上 俊 彦



今回、2006年4月22日に催された新潟大学歯学部同窓会総会学術講演会で、本学歯科矯正学分野の齋藤功教授による「新潟大学医歯学総合病院矯正歯科診療室における矯正治療の現況」という講演を拝聴しました。

歯科矯正治療の歴史は古く、ギリシャやエトルリアの出土物に矯正装置と見られるものがあり、紀元前1000年に遡ると聞いた事があります。日本においては1978年の医療法改正で歯科標榜科名に「矯正歯科」が加えられましたが、ここ最近の歯科矯正治療学の発展と、社会のニーズの拡大には目をみはるものがあります。と、知った風に書いてしまいましたが、私がこの世に生を受けたのが1979年ですので、私が目の当たりにした歯科矯正学は長い歴史のほんの一部です。したがって、歯科矯正学の奥深さは簡単に理解できるようなものではないことと思います。今回の齋藤功教授の講演では、本学における矯正治療方法やシステムの変遷と現況を軸に、臨床例を交えてとても分かりやすく話され、私にとってかなり新鮮で、刺激となるものでした。

また、今回の齋藤功教授の講演では、成人矯正治療の需要の増加についても触れられていました。私は現在、組織再建口腔外科学分野の大学院として勉学に努めている身ですが、外科的矯正治療症例を傍らにて経験する機会を何度か頂いております。その大部分が20歳前後の症例ですが、中にはより高齢層症例も見受けられました。現代社会における歯科治療に対する要求は高度になってきていると考えられ、そしてそれは地域差こそあ

れ今後も続くものでしょう。その一部がこのような形で現れているのだと思います。今後とも成人矯正治療のニーズ・適応の拡大に伴い、外科的矯正治療のそれも拡大することは容易に想像できません。以上の事を踏まえた上でも、齋藤功教授の講演内容は今後の展望を見据えたとても充実したものであり、口腔外科学を専攻する私にとっても今後の歯科治療全般に対する姿勢を前進的なものにしてくれたと感じています。

現在もそうですが、今後ますます歯科矯正治療が隆盛を誇る時代になると予想されます。適応症例の拡大がすすめられ、患者様の身体的のみならず、社会的健康を担うことのできる役割は今後とも重要であり、当然の事ながら私たち若い歯科医師は学び続けていかなければならない分野であることを痛感させていただきました。

## 平成17年度第2回歯学部教授会・同窓会定期協議会開催

20期生 渉外担当理事 杉 本 浩 志

日 時：平成18年3月6日(月) 午後7時から

場 所：新潟大学歯学部特別会議室

出席者：(教授会) 山田学部長、宮崎副病院長

：(同窓会) 多和田会長、佐藤副会長、宮野副会長、成田専務理事、齋藤渉外担当理事、飯田渉外担当理事、杉本渉外担当理事

### 1. 歯学部より(山田学部長)

はじめに、同窓会から歯学部への寄付について謝辞を述べた。

口腔生命福祉学科に海外より(スリランカ)の留学生を受け入れることになった。この件に関し、スポンサーの企業が留学費用の一部を負担してくれる。来年度以降も、引き続き留学生を受け入れる準備をすすめている。

公務員の人件費を5%削減しなくてはならない。人数を5%減らすということではないが、現



状では河野教授が退官した後、補充のめどは立っていない。細菌学教室の助教授に関しても同様。また、助手が退官した場合、旭町だけではなく全学の会議にて決定されるため、補充されるとしても半年ほど空白期間となることありうる。これとは別件で、今後3年間で48名を、歯学部、医学部、病院で削減しなければならない。医学部と統合できる部分はあるであろうが、外来、研究ともに、人員の削減に伴う質の低下を招く恐れがある。

今後、学部の事務は旭町地区として医学部と統合され、一部機能が歯学部に残るのみとなる。

大学院が定員割れを起こしている。定員を少なくすれば運営費、教員ともに削られてしまう。社会人にも門戸を開いているが決定打とはいえないのが実情である。

## 2. 病院より（宮崎副病院長）

今年より始まる研修医制度への、同窓会からの協力に対し謝辞を述べた。この制度に関しては、病院として、専属のスタッフを5名確保できたことも含めて明るい見通しを持っている。今後病院としては、さらになるスタッフの増員を図りたい。その際には病院内部からのみではなく、外部からの指導医を導入することも考えている。

病院外の研修医受け入れ施設数はまだまだ十分といえる状態ではなく、今後とも協力施設を募集したい。

歯学部は文科省の管轄だが、研修医制度の運営費に関わる人件費は管轄が異なるため文科省からは交付されず、独自運営を余儀なくされている。また、従来の研修医制度の2年目は手当てがつかなくなった。このため、医員27名分の手当てを削って充当する。

口腔外科の病室は、年末に医学部の病棟へ引越した。環境が変わったが、患者様の評判はおおむね良好である。なお、7～8年後には病棟だけではなく、外来棟も医学部と統合される可能性がある。今現在は、歯学部と医学部の病院は協力的に運営されており、人事に関しては独立性を保っている。

4月の保険制度改定により、病院でも相当の影響を受ける見込みである。今後は単に「歯科」といった概念に囚われたり、歯科医師個々の利潤の追求を考えるだけでは将来的な見通しは開けないであろう。たとえば嚙下といった分野で医科と協力体制を整えろとか、食育といった考えに基づいて歯科の存在を国民にアピールするといったことにより潜在的な患者様を掘り起こしていくことが開業医、病院ともに求められるのではないだろうか。

## 3. 同窓会より（多和田同窓会長）

### (1) 全学同窓会関連

4月1日に全学同窓会が発足する。設立祝賀会が5月27(土)に開催されるため、学内関係者に出席を依頼した。

11月3日(金)に行われる交流会への学内関係者の出席を依頼した。

### (2) 評議会報告

同窓会より歯学部への寄付金について報告した。寄付金等に関する報告は、協議会で報告するほか、ホームページにも掲載する。

口腔生命福祉学科の卒業生を同窓会へ受け入れる。同学科の卒業生には、同窓会の概要に関する説明会を2回予定しており、卒業と同時に同窓会の正会員となるようにスケジュールを組んでいる。

### (3) 同窓会名簿

個人情報保護の観点から、非会員（他大学出身の医局員等）は同窓会名簿に名前のみを載せることとする。

### (4) 歯学部の将来について

### (5) 歯学部と同窓会の連携について

同窓会と大学が協力し、研修会のような形で同窓会員に対しセミナーを企画してゆきたい。修了者には証書を発行したい。そのためには今後同窓会と大学で、カリキュラムを擦り合わせ、何らかの進展を図りたい。





#### 4. その他

研修医制度でのマッチングでは、新潟大学歯学部の人気は高かった。その一方他大学や、医学部では定員割れの所も多い。人員の一極集中化が進んでいるようである。

## 「平成18年度第1回歯学部教授会 同窓会定期協議会」開催される

18期 渉外担当理事 飯田明彦

標記会議が平成18年8月2日(水)午後7時より、東堀8「味粹」で開催されました。教授会側からは山田学部長、宮崎副病院長にご出席いただき、同窓会側からは多和田会長、佐藤、野村、宮野、鈴木の各副会長、成田専務理事、多部田渉外担当理事が出席しました。加賀料理に舌鼓を打ちながら午後9時30分まで、活発な協議がなされました。

以下に、議事の概要を示します。

#### 1. 同窓会の近況について（多和田会長）

- 1) 同窓会と学部の連携を強化している大学が増えてきた。本学でも連携を強化していきたい。
- 2) 口腔生命福祉学科の卒業生も同窓会に受け入れることとした。

#### 2. 歯学部の近況について（山田学部長）

- 1) 教育 GP や「留学生大学院教育の実質化による国際貢献」などの申請が採択された。後者については、同窓会からも支援を頂き感謝している。
- 2) 歯学部附属病院前の道路が2車線化されることに伴い、病院駐車場が狭くなる。さらに、看護師の130名増員が計画されており、駐車場問題は切実である。

#### 3. 全学同窓会について

全学同窓会として、会員が無料で利用できるクレジットカード（ゴールドカード）事業を開始する予定である。

#### 4. 同窓会室について

現時点で同窓会室として使用できる大学のスペースはない。今後、大学職員の削減などに伴いスペースが空くことも考えられる。そのようなスペースを同窓会が使用できる可能性もある。交渉先は歯学部ではなく大学となる。

#### 5. 歯学部・病院と同窓会との連携について

- 1) 山田学部長に対しすでに開業等で大学を離れた同窓生が、大学の実習などでインストラクターになることは可能かという質問をしたところ、学位を持っていれば可能であるという回答が得られた。ただし、同窓会としてインストラクター希望者の質の担保までは出来ないため、同窓会が窓口になることは困難である。
- 2) 他大学出身者で、本学の大学院に入学したものや、本学で臨床研修をしたものを賛助会員として入会していただく構想があることを報告した。
- 3) 病院について（宮崎副病院長）  
病院の統合により、厳しいところもあるがスケールメリットを享受できる部分もある。顎関節治療部やインプラント治療部の発足もあり、歯科としての主張を大切にしていきたい。そのような中で、歯科から臨床教授に採用されたものがあることは喜ばしいことである。

同窓会に対しては、臨床研修医の受け入れや病診連携でご協力をお願いしたい旨お話があった。

次回は、平成18年度第2回協議会を2月頃に行う予定である。

## 歯学部6年生と同窓会との交流会

27期 渉外担当理事 多部田康一

7月21日(金)に「歯学部6年生と同窓会との交流会」が歯学部大会議室で開催されました。6年生の参加者は54名中40名と多数の学生に参加して





いただきました。同窓会側からは多和田会長、宮野副会長、鈴木副会長、成田専務理事を始めとしてその他学内理事8名の先生方に参加していただいて大変賑やかなものとなりました。

鈴木副会長の司会進行により会は始まり、新潟大学歯学部同窓会の活動、本交流会の趣旨、経緯についての説明のあと、参加された同窓会の先生方からの自己紹介がおこなわれました。続いて多和田会長よりの挨拶においては歯科医師がどこよりも足りなかった昭和40年当時の新潟においての新潟大学歯学部の誕生とその後の同窓会設立から現在の歯科医師過密県新潟に至る興味深いお話、同窓会の役割、重要性、6年生に対して是非とも卒業後には全国17の新潟大学同窓会支部と連絡を取って就職や開業のアドバイスをもらうようなどのお話がありました。

そして成田専務理事より乾杯の発声をいただくと、冷たい生ビールにより時間を要せず、かしこまっていた雰囲気もとても和んだものとなりました。

十分に用意されていたはずのビールも追加が必要になるほどに会も賑わい、終了時間も例年より少し遅めの10時半くらいとなりました。

研修医必修化以前は6年生に対する進路アドバイスということで例年行われていた講演等は昨年と同様に本年度も行われませんでした。まだ研修先も決まっていない6年生に対してですのでその先を見越した進路相談は少々難しいことかもしれないとの配慮によるものですが、今年度末には必修化後の最初の研修医も終了することから、近いうちにまた改めてこの懇親会の形式も検討されることになると思われます。

学部卒業後、他大学や他機関にて研修を受ける学生も多くありますし、本学で研修を受けるとしてもなかなか同窓会と接する機会も多くないことから、将来同窓会の一員となつていただく6年生とこのような会において交流をもつことにはとても意義のあることであると考えられました。

